

教科・科目	国語・現代の国語	使用教科書	高等学校 現代の国語（第一学習社）
単位数	2	使用副教材	書きたくなるアシスト常用漢字（数研出版） 基本の現代文（尚文出版） 思考の論理スイッチ1必修編（浜島書店）
対象生徒 （学年・学科・ コース／類型）	1 学年普通科		
科目の概要と目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	評価の方法		
				知識	思判表	主体
4月	評論「『生きもの』として生きる」(中村 桂子)	筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。	語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	定期考査	○	
			主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解している。	定期考査		○
5月			粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。	ワークシート		○
中間考査						
5月	小説「羅生門」	近代の小説を読み、下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。	比喩などの修辞を理解している。	定期考査	○	
			主張と論拠など、情報と情報との関係を理解している。	定期考査		○
6月	評論「水の東西」(山崎正和)	東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。	意見を論述するために、内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。	ワークシート		○
			語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	定期考査	○	
期末考査	7月	自主教材「新聞コラム100字要約」	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。	定期考査		○
			情報と情報を対比させながら展開する評論を読み、論理の展開を分析しようとしている。	ワークシート		○
			文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する。	ワークシート	○	
9月	論理分析「『間』の感覚」(高階秀爾)	文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。	常用漢字を文や文章の中で活用する。	ワークシート	○	
			内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要約としてまとめる。	ワークシート		○
10月	論理分析「日本語は世界をこのように捉える」(小浜逸郎)	文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する。	筆者の主張が明確になるように表現の仕方を工夫しようとしている。	ワークシート		○
			語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	定期考査	○	
			情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。	定期考査		○
中間考査	10月	小説「夢十夜」(夏目漱石)	情報と情報を対比させながら展開する評論を読み、論理の展開を分析しようとしている。	ワークシート		○
			主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解している。	定期考査	○	
			情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。	定期考査		○
11月	評論「無彩の色」	ネズミ色のイメージをマイナスからプラスに転じる論展開と、筆者が論拠としてあげる事例を把握する。	具体例を示しながら展開する評論を読み、論理の展開を分析しようとしている。	ワークシート		○
			比喩や言い換えなどの修辞を理解している。	定期考査	○	
			自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫している。	定期考査		○
期末考査	12月	自主教材「新聞コラム100字要約」	意見や考えを論述するために、内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。	ワークシート		○
			語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	定期考査	○	
			文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。	定期考査		○
			例示された個別の情報を具体的に検証し、筆者の考えとの関係を説明しようとしている。	ワークシート		○

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	評価の方法		
				知識	思判表	主体
1月	評論「フェアな競争」(内田 樹)	筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。	語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	定期考査	○	
			文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。	定期考査		○
2月			接続の仕方に注意して内容・構成を捉え、学習課題に従ってまとめようとしている。	ワークシート		○
学年末考査						
3月	自主教材 資料読解と記述	様々な形式や素材のテキストを的確に読み解く。	グラフ・図表の種類と使い分けについて理解する。	ワークシート	○	
			必要な情報を探す方法を理解している。	ワークシート		○
			進んで情報探索の重要性を理解し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。	ワークシート		○

教科・科目	言語文化	使用教科書	高等学校 言語文化（第一学習社）
単位数	2単位	使用副教材	言語文化 学習課題集（第一学習社） 古文・漢文と一緒に学ぶ古典の手引き（いづな書店） 古文・漢文と一緒に学ぶ古典の手引き定着ノート（いづな書店） よむナビ古典1 基礎編（いづな書店）
対象学年・学科	1年 普通科 1～3組		
科目の概要と目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

実施時期	単元	学習内容	到達目標	知識	思判表	主体
4月	児のそら寝 古文を読むために1	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解する。 ・歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
	絵仏師良秀 古文を読むために2	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉える。 ・品詞の種類について、文語のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
	なよ竹のかぐや姫	・古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを理解する。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、伝奇性や心情描写の特色を捉える。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
	〔言語活動〕 古典から受け継がれる話の由来を調べる	・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	言語文化の継承に関心と自覚をもち、図書館の資料などを用いて、話の由来について調べようとしている。		◎	○
5月	訓読に親しむ 漢文を読むために	漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。	訓読のきまりを理解している。	◎	◎	
	漁父の利	文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。	・訓読のきまりを理解している。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
中間考査						
	狐借虎威 蛇足	文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。	・訓読のきまりを理解している。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
6月	〔言語活動〕 故事成語の由来と意味を調べる 〔歴史の窓〕	故事成語の由来を調べ、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	故事成語の由来と意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめようとしている。		◎	○
	一つのメルヘン（中原中也） 魅のうら（三好達治） 自分の感受性くらゐ（茨木のり子）	・詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の心情を捉える。 ・象徴的な表現を読み取り、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。			◎
	I was born（吉野弘）	・「僕」「父」の心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈して説明する。	散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取っている。	○	◎	○
期末考査						
7月	伊勢物語 〔歴史の窓〕 古文を読むために3	・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・学習課題に沿って異なるテキストと読み比べ、わかったことを積極的に伝え合う。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解している。	◎		
	枕草子 古文を読むために4 〔歴史の窓〕	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・主として助動詞について、文語のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	◎		
	土佐日記 古文を読むために5	・我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・作品に表れている批評や語録の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。 ・主として助詞について文語のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	◎		
10月	完壁 先従陳始	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘭相如の考えや人物像を読み取る。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「完壁」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隆が用いた論理の巧みさを読み解く。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	◎		
中間考査						
11月	徒然草 古文を読むために6 〔歴史の窓〕	・『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・主として敬語について文語のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	◎		
	平家物語 〔古典のしるべ〕と漢混交文	・作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈する。 ・「古典のしるべ」と読み合わせて、歴史的な文体的変化について理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 ・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	◎		
期末考査						
12月	唐詩の世界 漢詩のきまり 〔歴史の窓〕	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・漢詩のきまりを理解する。	・漢詩のきまりを理解している。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
	奥の細道 〔古典のしるべ〕『奥の細道』と和漢の文学	・句に感動の中心がある俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・俳諧紀行文の特徴を積極的に理解し、学習課題に沿って作者の感じ方や考え方を捉える。	・文語のきまりを理解している。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
1月	論語 〔歴史の窓〕	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・訓読のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・訓読のきまりを理解している。	◎		
	万葉集 〔古典のしるべ〕和歌の伝統と継承 古文を読むために7	・我が国の伝統文化の一つである和歌の鑑賞のしかたを理解し、黎明期の和歌の特色を捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化に特徴的な和歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・掛詞・縁語・見立てなどの和歌の修辞について、文語のきまりを理解する。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・和歌の修辞法を理解している。	◎		
2月	その子二十	・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 ・我が国の言語文化に特徴的な、短歌の表現の技法とその効果について理解する。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	○	◎	○
	〔言語活動〕 古典の和歌を現代の言葉で書き換える（俄万智）	・『伊勢物語』との関係を踏まえながら本文を読み、古典の和歌を現代の言葉で書き換える意義や解釈を深める。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。		◎	○
	〔言語活動〕 折句を用いて短歌を作る	・我が国の言語文化に特徴的な折句の表現の技法とその効果について理解する。 ・進んで折句の技法と伝統を理解し、折句を用いて短歌を創作する。	・折句を用いて、感じたことを短歌で表している。		◎	○
学年末考査						
3月	人形浄瑠璃音楽－三業一体	・我が国の伝統芸能に関する文章を読んで、扱われている題材や内容、表現の技法などについて興味を広げる。 ・我が国の伝統芸能について書かれた文章を読み、関連する事項について調べたことを整理して説明資料にまとめ、発表する。 ・言葉には、文化の継承を支えるはたらきがあることを理解する。	・我が国の伝統芸能について書かれた文章を積極的に読み、自分の考えをもとうとしている。 ・継承されてきた言語文化に興味をもち、学習課題に沿って、調査した内容を説明資料にまとめようとしている。		◎	○

教科・科目	地理歴史・地理総合	使用教科書	高等学校新地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院）
単位数	2	使用副教材	高等学校新地理総合ノート（帝国書院）
対象学年・学科	1年 普通科・農業科		
科目の概要と目標	1. 積極的に学習活動を行い、世界や地域のことを理解しようとするができる。 2. 広い視野で国際社会を見つめるために系統地理の知識を理解することができる。 3. 世界の特徴的な国や地域について、地理的な知識や視点を探究活動に生かすことができる。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度	知識	思判表	主体
1学期	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 1 地球上の位置と私たちの生活	緯度の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。	①緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。 ②緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○
1学期	5	2 時差と私たちの生活	時刻の違い(時差)は、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。	①時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解している。 ②時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
中間考査						
1学期	5	2節 地図の役割と種類 1 地球儀と地図	なぜ地図にはさまざまな図法があるのだろうか。	①球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について理解している。 ②球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	
1学期	6	2 身の回りの地図	主題図と一般図には、それぞれどのような表現方法や用途があるのだろうか。	①身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について理解している。 ②身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
		3 統計地図の種類と利用	統計地図にはどのような種類があり、どのように使い分けられているのだろうか。	①統計地図の種類、統計地図の比較と使い分けについて理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ②統計地図の種類、統計地図の比較と使い分けについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	
1学期	7	4 地理情報システム(GIS)の活用	地理情報システム(GIS)は、どのように活用されているのだろうか。	①地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ②地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
期末考査						
2学期	9	第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 1 現代世界の国家 2 日本の位置や領域	国家の領域や国境にはどのような決まりがあるのだろうか。日本の位置や領域、排他的経済水域にはどのような特徴があるのだろうか。	①国境の種類、国家の領域、国家の主権について理解している。日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について理解している。 ②国境の種類、国家の領域、国家の主権について、多面的・多角的に考察し、表現している。日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国境の種類、国家の領域、国家の主権について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	
2学期	10	2節 グローバル化する世界 1 国家間の結び付き 2 貿易によって結びつく世界 3 さまざまな交通網の発達	グローバル化に伴い、貿易や交通、通信、観光など、世界の国々を結び付ける要素には変化がみられる。世界の国々は、これらの要素によってどのように結び付いているのだろうか。	①国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解している。 ②国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③暮らしを支える貿易、貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
中間考査						
2学期	10	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	地球上には、高く険しい山脈や広大な平原、深い谷などの多様な地形がある。人々はこうした地形とどのように関わっているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。	①生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について理解している。 ②生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
2学期	11	2節 世界の気候と人々の生活	気温や降水、風などの気候要素は場所によって異なる。人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わっているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。	①気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について理解している。 ②気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
2学期	12	追究事例 自然1 乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 -オセアニア-	乾燥した大陸と多くの島々からなるオセアニアは、地形や気候が多様である。このような自然環境を生かして、どのような生活文化や産業が育まれてきたのだろうか。	①多くの観光客を魅了する自然環境、安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候について理解している。 ②多くの観光客を魅了する自然環境、安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③多くの観光客を魅了する自然環境、安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	
期末考査						
3学期	1	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	世界には、日本とは異なる言語を話す民族が存在し、さまざまな宗教が信仰されている。言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。	①言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している。 ②言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○
3学期	2	4節 歴史的背景と人々の生活	世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、さまざまな出来事を積み重ねることによって変化を遂げてきた。このような歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。	①生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解している。 ②生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	
学年末考査						
3学期	3	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災	世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いている。日本の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。変動帯に位置する日本は、数多くの地震によってさまざまな被害を受けてきた。地震や津波は、どのような被害をもたらすのだろうか。また、地震や津波の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのだろうか。	①明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について理解している。 ②明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。①地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解しており、地理的技能を身に付けている。 ②地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	

教科・科目	地理歴史・歴史総合	使用教科書	東京書籍「新選歴史総合」(歴総701)
単位数	2	使用副教材	「新選歴史総合 ワークノート」
対象学年・学科	1年 普通科		
科目の概要と目標	歴史総合は、近現代の歴史変動を世界と日本の相互関係から捉え、資料を用いて歴史学習法を習得する。現代的課題の形成に関わる歴史を考察し、構想する学習を通じ、広い視野と国際社会で主体的に生きる公民としての資質育成、グローバル化する社会で平和で民主的な国家・社会の形成者を育むことを目指す科目である。 知識・技能：世界と日本の近現代史を相互的な視点から捉え、資料に基づいた情報収集・分析能力を養う。 思考力・判断力・表現力：歴史的事象の多角的考察、課題解決策の構想、説明・議論能力を育成する。		

※下表にない単元は長期休暇中の課題等として実施予定。

実施時期	単元	学習内容	到達目標	知識	思判表	主体
～1学期中間考査	第2章2節 結び付く世界と日本の開国	18世紀の東アジア諸国間の関係性を、資料を基に読み解き、相互理解を深める。	資料を多角的に解釈し、18世紀東アジアの国際関係を説明できる。	○	○	○
	2-2-① 18世紀の東アジア	18世紀のアジア各地域の経済的な繋がりを、資料分析を通して明らかにする。	アジアの経済ネットワークを分析し、地域間の相互依存関係を論述できる。	○	○	○
	2-2-② 結び付くアジア諸地域	18世紀のヨーロッパとアジアの貿易の変化を、資料から読み取り、その特徴を考察する。	ヨーロッパとアジアの貿易構造の変化を、歴史的背景を含めて説明できる。	○	○	○
	2-2-③ 18世紀のヨーロッパとアジア	産業革命が社会にもたらした変革を、過程と資本主義の確立に着目して理解する。	産業革命の社会的影響を分析し、資本主義成立との関連性を論述できる。	○	○	○
	2-2-④ 産業革命のはじまり	産業革命後の世界経済の変容を、イギリスの役割を中心に理解する。	イギリスの世界経済における影響力を評価し、世界市場形成の過程を説明できる。	○	○	○
	2-2-⑤ 世界市場の形成	19世紀東アジアと欧米諸国の関係性を、不平等条約締結の影響を含めて理解する。	東アジアの国際関係の変化を、日本の開国と関連付けて説明できる。	○	○	○
	2-2-⑥ 東アジア国際関係の変化と日本の開国	産業革命の世界的な広がりが各国にもたらした変化を、日本の事例を含めて理解する。	各国の産業革命の展開を比較し、その世界的影響を論述できる。	○	○	○
	2-2-⑦ 世界経済の変化と日本の産業革命	市民革命が社会システムに与えた影響を、アメリカ独立革命とフランス革命を例に理解する。	市民革命が近代社会の形成に果たした役割を、具体例を挙げて説明できる。	○	○	○
	2-3-① 市民革命と近代社会	19世紀欧米における国家形成の模索を、自由主義とナショナリズムの観点から理解する。	19世紀欧米の国家形成における思想的背景を分析し、その多様性を説明できる。	○	○	○
	2-3-② 自由主義とナショナリズム	19世紀アジアの政治変動を、各地域の背景と変化に着目して理解する。	アジア各地域の政治変動を比較し、その共通点と相違点を論述できる。	○	○	○
～1学期末考査	2-3-③ アジアの諸国家とその変容	明治維新が起きた国際環境と、日本社会への影響を理解する。	明治維新の国際的背景を分析し、東アジアの国際関係における位置付けを説明できる。	○	○	○
	2-3-④ 明治維新と東アジアの国際関係	19世紀後半の立憲制国家の多様な特徴を、比較を通して理解する。	各国の立憲制を比較し、その特徴と相互関係を論述できる。	○	○	○
	2-3-⑤ 立憲制の広まり	帝国主義の概念と植民地獲得競争の展開を、19世紀末以降の世界情勢を基に理解する。	帝国主義の世界的影響を分析し、植民地支配の実態を説明できる。	○	○	○
	2-3-⑥ 帝国主義と植民地	日清戦争が東アジアの国際秩序に与えた影響を、華夷秩序の解体と関連付けて理解する。	日清戦争の歴史的意義を評価し、東アジアの国際関係における転換点を説明できる。	○	○	○
	2-3-⑦ 日清戦争と華夷秩序の解体	帝国主義国家間の関係性を、日露戦争への繋がりを含めて理解する。	帝国主義国家間の対立と協調を分析し、日露戦争の背景を説明できる。	○	○	○
	2-3-⑧ 帝国主義諸国の競合と国際関係	植民地支配の実態と、それが現地の近代化に与えた影響を理解する。	植民地支配の多面的な影響を評価し、現地の近代化との関連性を論述できる。	○	○	○
	2-3-⑨ 植民地支配と植民地の近代	20世紀初頭における帝国主義への多様な反応を、世界各地の事例を通して理解する。	帝国主義に対する抵抗運動を分析し、その世界的広がりを説明できる。	○	○	○
	2-3-⑩ 020世紀はじめの世界	第一次世界大戦の展開と総力戦体制の出現を、背景と意義を含めて理解する。	第一次世界大戦の性格を分析し、総力戦体制の歴史的意義を説明できる。	○	○	○
	3-2-① 第一次世界大戦の展開	第一次世界大戦後の国際協調体制を、ヴェルサイユ体制とワシントン体制を中心に理解する。	戦後国際秩序の形成過程を分析し、国際協調体制の目標と限界を説明できる。	○	○	○
	3-2-② 国際協調体制の形成	ソヴィエト連邦成立と社会主義運動の世界的拡大を、ロシア革命を背景に理解する。	ロシア革命の世界的影響を評価し、社会主義運動の展開を説明できる。	○	○	○
～2学期中間考査	3-2-③ ソヴィエト連邦の成立と社会主義	アメリカ合衆国の国際的地位向上と大衆文化の広がりを、その背景を含めて理解する。	アメリカ合衆国の世界的影響力を分析し、大衆消費社会の出現を説明できる。	○	○	○
	3-2-④ アメリカ合衆国の台頭と大衆消費社会	第一次世界大戦後のアジア経済の発展と人々の移動を、地域間の結びつきに着目して理解する。	アジア経済の発展要因を分析し、人々の移動が地域社会に与えた影響を説明できる。	○	○	○
	3-2-⑤ アジアの経済成長と移動する人々	第一次世界大戦後の民主主義の世界的進展と、日本における大正デモクラシーを理解する。	民主主義の世界的拡大を分析し、日本における大正デモクラシーの意義を説明できる。	○	○	○
	3-2-⑥ アジアの反植民地主義の高揚と国際秩序の変容	マスメディアの発達が生じた人々の日常生活に与えた影響を、大衆と国家の関係性を含めて理解する。	マスメディアの社会的役割を分析し、大衆文化の形成を説明できる。	○	○	○
	3-2-⑦ 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容	世界恐慌の発生原因と各国の対応を、その影響を含めて理解する。	世界恐慌の世界的影響を評価し、各国の政策対応を比較できる。	○	○	○
	3-2-⑧ 民主主義の拡大と社会変革の動き	国際協調体制動揺下のアジア・アフリカ諸国の動向を、自立の動きと大衆運動に着目して理解する。	アジア・アフリカ諸国の民族運動を分析し、国際協調体制の動揺との関連性を説明できる。	○	○	○
	3-2-⑨ マスメディアの発達と日常生活	国際協調体制の崩壊過程を、ファシズムの伸長を背景に理解する。	ファシズムの世界的影響を評価し、国際協調体制崩壊の要因を説明できる。	○	○	○
	3-2-⑩ 世界恐慌	日中戦争とファシズムの膨張がもたらした世界的危機を、両者の関連性を含めて理解する。	日中戦争とヨーロッパの危機を関連付け、第二次世界大戦への繋がりを説明できる。	○	○	○
	3-3-① 第二次世界大戦の勃発	第二次世界大戦の勃発と拡大、日中戦争との関連性を理解する。	第二次世界大戦の世界的影響を評価し、アジア太平洋戦争との繋がりを説明できる。	○	○	○
	3-3-② アジア太平洋戦争と日本の敗戦	第二次世界大戦の終結と戦後国際秩序の形成を、連合国の動きを中心に理解する。	連合国の戦後構想を分析し、新たな国際秩序形成への影響を説明できる。	○	○	○
～2学期末考査	3-3-③ 第二次世界大戦における連合国と戦後構想	アジア太平洋戦争の展開と日本の敗戦過程を、人々の生活を含めて理解する。	アジア太平洋戦争の多面的な影響を評価し、日本の敗戦に至る過程を説明できる。	○	○	○
	3-3-④ 日中戦争と深刻化する世界の危機	連合国の占領政策と冷戦開始を、日本の主権回復と国際情勢を背景に理解する。	冷戦が日本の占領政策に与えた影響を分析し、主権回復の国際的背景を説明できる。	○	○	○
	3-3-⑤ 第二次世界大戦の勃発	冷戦下で再編されたアジア諸地域の動向を、ナショナリズムの諸相に着目して理解する。	冷戦下のアジアにおけるナショナリズム運動を分析し、その世界的影響を説明できる。	○	○	○
	3-3-⑥ 第二次世界大戦における連合国と戦後構想	冷戦の世界的拡大と第三勢力の台頭を、共存への模索を含めて理解する。	冷戦構造の多面性を分析し、第三勢力台頭の国際的背景を説明できる。	○	○	○
	3-3-⑦ アジア太平洋戦争と日本の敗戦	冷戦下の核開発競争と宇宙開発競争、核兵器管理への転換を理解する。	キューバ危機が核兵器管理体制に与えた影響を評価し、米ソの核戦略を説明できる。	○	○	○
	3-3-⑧ 連合国の占領政策と冷戦	アジア・アフリカにおける脱植民地化と地域紛争を、その背景を含めて理解する。	脱植民地化が地域紛争に与えた影響を分析し、新たな国家形成の課題を説明できる。	○	○	○
	3-3-⑨ 再編されるアジアと冷戦	冷戦下の自由主義国、社会主義国、開発途上国の経済政策を比較し、相互関係を理解する。	冷戦下の経済政策の多様性を分析し、開発途上国の経済発展における課題を説明できる。	○	○	○
	3-3-⑩ 冷戦下の日本とアジア	冷戦下の日本の国内政治とアジア外交を、55年体制を中心に理解する。	55年体制の成立と展開を分析し、冷戦下における日本の国際的地位を説明できる。	○	○	○
	4-2-① 冷戦の拡大と第三勢力	欧米先進国と日本の経済成長と社会変容を、その要因を含めて理解する。	高度経済成長の世界的影響を評価し、日本と欧米の社会変容を比較できる。	○	○	○
	4-2-② キューバ危機と核兵器の管理	ヨーロッパとアジアにおける地域連携の動きを、その特徴と背景を含めて理解する。	ヨーロッパとアジアの地域統合を比較し、その目的と課題を説明できる。	○	○	○
～学年末考査	4-2-③ 脱植民地化の進展と地域紛争	先進諸国における近代的な価値観の問い直しと、価値観の変容を理解する。	近代的価値観への批判を分析し、現代社会における価値観の多様性を説明できる。	○	○	○
	4-2-④ 計画経済と開発	石油危機と経済の自由化を、その影響を含めて理解する。	石油危機が世界経済に与えた影響を評価し、経済自由化の背景を説明できる。	○	○	○
	4-2-⑤ 冷戦下の日本とアジア	東アジア・東南アジア諸国・地域の経済発展を、日本の役割を含めて理解する。	アジア新興工業経済地域 (NIES) と東南アジア諸国連合 (ASEAN) の経済発展を分析し、日本の経済協力の意義を説明できる。	○	○	○
	4-2-⑥ 日本と欧米先進国の経済成長	冷戦の終結と東アジアの分断状況を、その影響を含めて理解する。	冷戦終結が国際社会に与えた影響を評価し、東アジアの課題を説明できる。	○	○	○
	4-2-⑦ 地域連携の拡大	冷戦終結後の地域紛争と国際社会の動きを、その課題を含めて理解する。	冷戦後の地域紛争の多様性を分析し、国際社会の平和維持活動の課題を説明できる。	○	○	○
	4-3-① 問い直される近代	世界各国で進んだ民主化と日本の政権交代を、その背景を含めて理解する。	冷戦後の民主化運動を分析し、日本の政治変動との関連性を説明できる。	○	○	○
	4-3-② 石油危機と経済の自由化	冷戦終結後のグローバル化と地域統合を、その影響を含めて理解する。	グローバル化と地域統合の進展を分析し、現代社会における課題を説明できる。	○	○	○
	4-3-③ アジアの経済発展と日本	グローバル化、地域統合、民主主義が抱える問題点を理解する。	グローバル化がもたらした課題を分析し、日本が国際社会で果たすべき役割を説明できる。	○	○	○
	4-3-④ 冷戦の終結と世界					
	4-3-⑤ 拡散する地域紛争					
4-3-⑥ 民主化の進展						
4-3-⑦ グローバル化と地域統合						
4-3-⑧ 岐路に立つ世界と日本						

教科・科目	公共	使用教科書	高等学校『改訂版 公共』（第一学習社）			
単位数	2単位	使用副教材	公共ノート（第一学習社）			
対象学年・学科	2年普通科					
科目の概要と目標	1. 地域的特色と、日本及び世界との関わりを理解するとともに、調査や情報効果的にまとめる技能を身に付けた生徒を育成する。 2. 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動に取り組むことのできる生徒を育成する。 3. 多面的、多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする生徒の態度を養う。					
実施時期	単元	学習内容	到達目標	知識	思考力	主体
4月	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち I-①社会に生きる私たち	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	人生において青年期がもつ意味や役割を理解している。			
	I-②個人の尊厳と自主・自律	公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。	人間は個人として相互に尊重されるべき存在であることを理解している。			
	I-③多様性と共通性	公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学ぶ。	異文化や他者のもつ価値観について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。			
	I-④キャリア形成と自己実現	生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	自立した主体になることが各人のキャリア形成とよりよい社会の形成に結びつく理由を多面的・多角的に考察し、説明している。			
	II-①伝統や文化とのかかわり	伝統や文化と、自らの行動様式や考え方の関係について理解する。	伝統や文化とは何かを十分に理解している。			
5月	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 I-①人間と社会のあり方についての見方・考え方 I-②実社会の事例から考える～環境保護 I-③実社会の事例から考える～生命倫理 II-①公共的な空間を形成するための考え方 II-②よりよく生きる行為者として活動する考え方	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。	・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を十分に理解している。 ・自分も他者ともに納得できる問題の解決に向けて、思考実験などをとおして多面的・多角的に考察し、説明している。 ・選択・判断の手掛かりとなる二つの考え方の課題を多面的・多角的に考察し、説明している。 ・よりよく生きるための、古今東西の先人の知恵や考え方について十分に理解している。			
	第3章 公共的な空間における基本的原理 I-①人間の尊厳と平等 I-②民主政治の基本的原理 I-③法の支配 I-④自由・権利と責任・義務 II-①世界のおもな政治体制 II-②日本国憲法に生きたる基本的原理	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。 ・人権保障のあり方や世界の政治体制、日本国憲法などを通じて、公共的な空間における基本的原理が、現代社会でどのような形で生かされているかを理解する。	・人間の尊厳と平等とは何かを十分に理解している。 ・個人の尊厳とは何かを十分に理解している。 ・民主主義とは何かを十分に理解している。 ・法の支配とは何かを十分に理解している。 ・自由・権利と責任・義務とは何かを十分に理解している。 ・議院内閣制や大統領制、そのほかの政治体制について十分に理解している。 ・公共的な空間における基本的原理が、日本国憲法にどのような形で生かされているかを十分に理解している。			
中間考査						
6月	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち ①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由・平等と法・規範 ④法をよりよく変えていくために	・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。	・法の役割や、法が日常生活に密接に関連していることについて十分に理解している。 ・私たちが互いを尊重し、平等に扱うために気をつけるべきことについて十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・基本的人権と法の関わり方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。			
	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	・契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 ・なぜ契約が生まれ、契約を守ることが大切なのかを理解する。 ・消費者と事業者を対等な立場に置き、消費者主権を実現するために、消費者に関する法律が定められていることを理解する。	・契約自由の原則について十分に理解している。 ・成年年齢の意味や成年の責任、消費者の権利・責任に関わる現実社会の課題について十分に理解している。			
期末考査						
7月	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち ①裁判所と人権保障	・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・なぜ裁判所が必要なのか、司法権の独立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲審査権から理解する。	国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを十分に理解している。			
	第2章 政治的な主体となる私たち ①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成 ③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉	・民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割を理解する。 ・主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。 ・地域社会の課題に、私たちの意思を反映させるにはどうすればよいかを理解する。	・選挙権年齢が18歳以上であることをふまえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて十分に理解している。 ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事例や課題を十分に理解している。 ・国会の地位と構成・権限について十分に理解している。 ・議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について十分に理解している。 ・地方自治の運営状況について十分に理解している。			
9月	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	・主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているかを理解する。 ・領土問題の背景と現状を理解する。 ・国際社会の平和と安定を維持するための国際連合の取り組みを理解する。	・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事例や課題を十分に理解している。 ・世界で発生している領土問題の現状や背景を十分に理解している。 ・国連が設立された背景や国連の機能について十分に理解している。			
	①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和	・日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。 ・軍縮に向けて国際社会や私たちに何が必要かを考える。	・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・世界平和に向けた日本の取り組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。 ・核兵器や高機能化した通常兵器の廃絶について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。			
中間考査						
11月	①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・今日の国際社会の特徴について理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景、現状を理解する。	・人種・民族問題、地域紛争、難民問題の実態や、解決に向けた国際社会の取り組みについて十分に理解している。 ・国際社会における日本の役割に関わる現実社会の事例や課題を十分に理解している。 ・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持とにかかっているかを十分に多面的・多角的に考察し、説明している。			
	第3章 経済的な主体となる私たち ①私たちが経済 ②労働者の権利と労働問題	・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさをともに成り立たせるために必要なことを理解する。 ・経済の基本的なしくみと経済的決定が将来の選択に役立つことを理解する。 ・労働者を守るための法や権利を理解する。 ・労働問題やその背景にある社会の変化を理解する。	・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちが、どのように経済活動に参加しているのか、十分に理解している。 ・仕事と生活の調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事例や課題を十分に理解している。			
10月	①技術革新の進展と産業構造の変化②企業	・グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけばよいかを学ぶ。 ・第二次世界大戦後から現代までの日本経済のありかみと、現代の経済の課題を理解する。 ・情報化の進展が日本経済や中小企業・農林水産業の課題の解決にどのような影響を与えているかを理解する。	・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・農林水産業の現状と今後について十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・企業のはたらきや社会的責任、中小企業の課題とそれに対する取り組みなどを十分に理解している。			
	①金融の意義や役割	・経済において、金融市場はどのような役割を果たしているかを理解する。 ・中央銀行は日本経済の状況に応じて、どのような金融政策をとっているかを理解する。 ・社会の変化が、金融にどのような影響を与えているかを理解する。 ・投資の意義や投資に必要な考え方を理解する。	金融や金融機関、日本銀行の役割を十分に理解している。			
11月	①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	・少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきかを理解する。 ・財政の意義やしくみ、日本の財政の課題を理解する。 ・社会保障の意義やしくみ、日本の社会保障制度の課題を理解する。	・財政の意義やしくみを十分に理解している。 ・社会保障の意義やしくみを十分に理解している。			
	①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的経済統合の動き ⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから	・経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 ・自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割を理解する。 ・外国為替相場の変動がおよぼす影響やその要因について理解する。 ・経済のグローバル化が日本経済にどのような影響をおよぼしているかを理解する。 ・地域的経済統合のメリット・デメリットを理解し、日本のこれからの貿易政策はどうかを考察する。 ・国際社会における貧困や格差の原因を理解し、発展途上国の経済成長のために何が必要かを理解する。 ・経済発展の負の影響として、地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解する。	・国際貿易の意義について十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・外国為替相場の変動がおよぼす影響やその要因について十分に理解している。 ・経済のグローバル化が日本経済におよぼしている影響について十分に理解している。 ・地域的経済統合が日本の産業に与える影響について十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・貧困や格差の解消に向けた国際協力のあり方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。 ・地球環境問題への取り組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。 ・エネルギー消費のあり方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。 ・国際協定について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。			
学年末考査						
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題	・持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。	・課題の解決に向けて、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、十分に多面的・多角的に考察し、説明している。 ・これまでの学習を関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、十分に多面的・多角的に考察し、表現している。 ・その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを十分に説明、論述している。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	数学・数学 I	使用教科書	改訂版 新編 数学 I (数研出版)
単位数	3	使用副教材	チャート式 基礎と演習 数学 I+A (数研出版), 3TRIAL 数学 I+A (数研出版)
対象学年・学科	1年 普通科		
科目の概要と目標	方程式と不等式および2次関数について、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思考	主体
4月	第1章 数と式 第1節 式の計算	○多項式の加法と減法 ○多項式の乗法 ○因数分解	○多項式について。同類項をまとめたり、ある文字に着目して降べきの順に整理したりすることができる。 ○指数法則を理解し、多項式の乗法の計算ができる。 ○因数分解の公式を利用できる。 ○因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。	○		○
5月	第2節 実数 第3節 1次不等式	○実数 ○根号を含む式の計算	○絶対値の意味と記号表示を理解している。 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。	○	○	
中間考査				○	○	○
5月		○不等式の性質 ○1次不等式 ○絶対値を含む方程式、不等式	○分母の有理化ができる。 ○不等号の意味や性質を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。 ○不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。 ○連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。 ○絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。		○	○
6月	第2章 集合と命題	○集合 ○命題と条件 ○命題とその逆、対偶、裏 ○命題と証明	○集合とその表し方を理解している。 ○空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 ○命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 ○必要条件、十分条件、必要十分条件。同値の定義を理解している。 ○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を調べるができる。 ○対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。	○		
期末考査				○	○	○
7月	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	○2次関数のグラフ	○定義域がある1次関数のグラフがかけ、値域が求められる。 ○ $y=ax^2+q$, $y=(x-p)^2$, $y=a(x-p)^2+g$ について、グラフの平行移動とともに理解している。 ○平方完成ができる。 ○平方完成を利用して、2次関数 $y=ax^2+2bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。		○	○
9月	2次関数の値の変化 第2節 第3節 2次方程式と2次不等式	○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定 ○2次方程式 ○2次関数のグラフとx軸の位置関係 ○2次不等式	○2次関数を $y=[a(x-p)]^2+q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 ○2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 ○2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ○2次方程式において、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。 ○2次関数のグラフと軸の共有点の個数を求めることができる。 ○2次不等式を解くことができる。 ○2次の連立不等式を解くことができる。	○	○	
中間考査				○	○	○
10月	第4章 図形と計量 第1節 三角比	○三角比 ○三角比の相互関係 ○三角比の拡張	○三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 ○ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。	○		○
11月	第2節 三角形への応用	○正弦定理 ○余弦定理 ○正弦定理と余弦定理の応用	○正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 ○余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。		○	
期末考査				○	○	○
12月		○三角形の面積 ○空間図形への応用	○三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ○3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ○正弦定理, 余弦定理を空間図形の計量に応用できる。		○	○
1月	5章 データの分析	○データの整理 ○データの代表値 ○データの散らばりと四分位数 ○分散と標準偏差 ○2つの変数の間の関係 ○仮説検定の考え方	○度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 ○平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ○範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ○分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 ○相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	○		○
2月	数学 発展学習式と証明	○3次式の展開と因数分解 ○二項定理 ○多項式の割り算	○3次式の展開の公式を利用することができる。 ○3次式の因数分解の公式を利用することができる。 ○二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ○二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 ○多項式の割り算の計算方法を理解している。	○	○	
学年末考査				○	○	○
3月	数学 発展学習式と証明	○分数式とその計算 ○恒等式 ○等式の証明 ○不等式の証明	○分数式の約分、四則計算ができる。 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 ○恒等式と方程式の違いを理解している。 ○恒等式となるように、係数を決定することができる。 ○恒等式 $A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ○実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 ○平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ○絶対値の性質を利用して、絶対値を含む不等式を証明することができる。 ○相加平均 相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。		○	○

教科・科目	物理基礎	使用教科書	新編 物理基礎 (数研出版)
単位数	2単位	使用副教材	新編 物理基礎準拠 サポートノート (数研出版)
対象学年・学科	1年・普通科		
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		

実施時期	単元	学習内容	到達目標	知識	思判表	主体
4月	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1 速度	平均の速度と瞬間の速度を求める。相対速度の求め方を理解する。	平均の速度と瞬間の速度の違いを明確にし、求められるようにする。相対速度の求め方を理解する。	○		○
5月	2 加速度	直線運動における加速度の定義を理解し、ベクトル量として扱うことを理解する。等加速度直線運動における3つの式を理解する。	直線運動における加速度の定義を理解し、ベクトル量として扱うことを理解させる。等加速度直線運動における3つの式を理解し、具体的に使うことが出来る。		○	○
中間考査				○	○	○
5月	3 落体の運動	落体の運動は、等加速度直線運動であることを理解し、運動の様子を式で表す。また、水平投射や斜方投射は、水平方向と鉛直方向に分解して扱えることを理解する。	落体の運動は、等加速度直線運動であることに気づく。自由落下や鉛直投射等の式が書けるようにし、それを使える。また、水平投射や斜方投射は、水平方向と鉛直方向に分解して扱えることを理解する。		○	○
6月	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 1 力とその働き	力は、ベクトル量であり、大きさや向きがあることを理解する。また、弾性力についてはフックの法則を理解する。	力は、ベクトル量であることを理解する。身近な力を取り上げ、それらの大きさや向きについて理解する。また、弾性力についてはフックの法則を扱い、ばね定数の意味についても理解する。	○		
6月	2 力のつり合い	力の合成や分解を理解する。また、物体にはたらく力を正しく見つけ、つりあいの式が立てられる。作用反作用の法則を理解し、つりあう2力と作用反作用の関係との違いを理解する。	力はベクトル量であることを認識させながら合成や分解ができることを理解する。また、物体にはたらく力が正しく見つけられるとともに力が釣り合っているとき、分解したときの値についてつりあいの式が立てられる。作用反作用の法則を理解し、つりあう2力の関係と作用反作用の2力の関係との違いが分かる。		○	○
期末考査				○	○	○
7月	3 運動の法則	慣性の法則や運動方程式を扱い、力と運動との関係を実験を基に理解する。物体は落下するとき加速度を生じることから、運動方程式により、重力がはたらいていることを理解する。	慣性の法則や運動方程式を扱い、力と運動との関係を実験を基に理解する。特に運動方程式については、具体例を用いて式の立て方を習得する。物体は落下するとき加速度を生じることから、運動方程式により、重力がはたらいていることがわかること、および、重力の大きさがmg [N]であることを理解する。		○	○
9月	4 摩擦を受ける運動	静止摩擦力と最大摩擦力の違いを理解する。さらに、動摩擦力の大きさについても動摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。	静止摩擦力と最大摩擦力の違いを認識でき、最大摩擦力の大きさが静止摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。動摩擦力の大きさが動摩擦係数と垂直抗力の積で表されることを理解する。		○	○
10月	5 液体や気体から受ける力	圧力の大きさと単位について理解する。また、浮力の大きさについてアルキメデスの原理が成り立つことを理解する。空気中を落下する物体には、空気抵抗がはたらくことを理解する。	流体中の物体は圧力を受けることや、その大きさと単位について理解する。流体中にある物体には浮力がはたらくこと、および、その大きさについてアルキメデスの原理が成り立つことを理解する。空気中を落下する物体には、空気抵抗がはたらくことを理解する。		○	○
中間考査				○	○	○
10月	第1編 運動とエネルギー 第3章 仕事と力学的エネルギー 1 仕事	仕事の定義を理解する。また、F-x図の面積が仕事の大きさを表すことを理解する。仕事の原理を理解する。また、単位時間にした仕事の仕事率であることも理解する。	仕事の定義を確認しながら、その値は力と変位の積で求められることを理解する。また、F-x図の面積が仕事の大きさを表すことを理解する。演示実験等を用いながら、仕事の原理を理解する。また、単位時間にした仕事の仕事率であることも理解する。	○		
10月	2 運動エネルギー	運動している物体が運動エネルギーを持っていることを理解する。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいことを理解する。	運動している物体が運動エネルギーを持っていることとその大きさを求めることが出来る。また、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係を運用できる。		○	○
11月	3 位置エネルギー	位置エネルギーと弾性エネルギーを理解する。男性エネルギーに関してはその値の求め方とともに過程も理解する。	基準より高い所にある物体は、重力による位置エネルギーをもっていることを理解する。また、重力がした仕事より、その値を求めることが出来る。弾性力による位置エネルギーについては、その値の求め方とともに過程も理解する。		○	
11月	4 力学的エネルギーの保存	自由落下を例にとり、力学的エネルギー保存則が成り立っていることを理解する。物体に非保存力が仕事をすると、その仕事だけ力学的エネルギーが変化することを理解する。	仕事と運動エネルギーの関係式を用いて、力学的エネルギー保存則が成り立っていることを理解する。その際、保存力だけが仕事をすることを理解する。逆に、物体に非保存力が仕事をすると、その仕事だけ力学的エネルギーが変化することを理解する。		○	○
11月	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1 熱と物質の状態	温度は原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、絶対温度について理解する。熱がエネルギーの一形態であることを理解する。熱容量や比熱の定義を理解し、外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解する。物質には、固体、液体、気体の3つの状態が存在し、いずれの状態でも熱運動があることを理解する。また、多くの場合、温度が上がると物体の体積が大きくなることを理解する。	ブラウン運動の観察を通じて、熱運動について理解する。温度は、原子や分子の熱運動の激しさを示すものであり、熱運動が停止するときの温度を0とする絶対温度について理解する。熱がエネルギーの一形態であることを理解する。熱容量や比熱の定義を理解させたうえで、温度をΔT [K] 変化させるのに必要な熱量を、熱容量や比熱を用いて表すことができる。また、外部との熱のやりとりがない場合、熱量が保存されることを理解する。物質には、固体、液体、気体の3つの状態が存在し、いずれの状態でも熱運動があることを理解する。また、多くの場合、温度が上がると物体の体積が大きくなることを理解する。	○		○
期末考査				○	○	○
12月	2 熱と仕事	熱がエネルギーの一形態であることを理解し、気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多いほど大きくなることを理解する。熱力学第一法則を理解することで、熱機関の効率について理解する。	熱がエネルギーの一形態であることを理解する。気体の内部エネルギーは、温度が高いほど、また分子の数が多いほど大きくなることを理解する。また、熱力学第一法則を理解する。自然界のエネルギーの変換では不可逆変化に伴うことを示し、それに関連して熱機関の効率について理解する。		○	
12月	第3編 波 第1章 波の性質 1 波と媒質の運動	波動の現象を理解する。波を表す要素は振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さであることを理解する。また、位相について扱い、同位相、逆位相についても理解する。横波と縦波の違いにも触れる。	波動とは、媒質の1点に起こった振動が、媒質中を少しずつ遅れて伝わっていく現象であることを理解する。波を表す要素は振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さであることを理解する。また、位相について扱い、同位相、逆位相についても理解する。横波と縦波の違いにも触れる。	○		○
12月	2 重ね合わせの原理	波の重ねあわせの原理について理解する。定在波ができる仕組みや定在波の媒質の変位が場所によって振幅が異なることを理解する。また、自由端反射と固定端反射の違いを理解する。	波の重ねあわせの原理について理解する。定在波ができる仕組みや定在波の媒質の変位が場所によって振幅が異なることを理解する。また、自由端反射と固定端反射の違いを理解する。		○	
1月	第3編 波 第2章 音 1 音の性質	音波は縦波であることを理解する。空気中を伝わる音の速さは、温度が高いほど速くなる。音の高さ・大きさについては、音波の波形図を用いて定性的に説明できる。うなりの現象を実験によって観察させ、理由を理解する。	音波は縦波であることを理解する。空気中を伝わる音の速さは、温度が高いほど音の速さは速くなる。音の高さ・大きさについては、音波の波形図を用いて定性的に説明できる。うなりの現象を実験によって観察させ、その理由を理解する。	○		○
1月	2 発音体の振動と共振・共鳴	弦の振動は定在波であることを理解する。気柱の固有振動は閉端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握する。振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる(共振・共鳴)ことを理解する。	弦の振動は、弦の両端を節とする定在波であることを、観察をもとにして理解する。気柱の固有振動は閉端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握する。振動体にその固有振動の周期と等しい周期で変化する外力を加えると、振動体は大きく振動するようになる(共振・共鳴)ことを理解する。		○	
2月	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1 電気の種類	物体が帯電するしくみでは、帯電は電子の過不足から生じ、電気現象は電子が主役であることを理解する。	物体が帯電するしくみでは、帯電は電子の過不足から生じ、電気現象は電子が主役であることがわかる。	○		
2月	2 電流と電気抵抗	電流の向きと大きさについて理解する。また、電圧・電流・電気抵抗の間には、オームの法則が成り立つこと、抵抗率についても理解する。直列・並列接続の特徴を理解する。	電流の向きと大きさについて理解する。また、電圧・電流・電気抵抗の間には、オームの法則が成り立つこと、抵抗率についても理解する。直列・並列接続の特徴を理解する。		○	○
2月	3 電気とエネルギー	導体内にある自由電子の様子について理解する。発生する熱をジュール熱とよぶこと、および、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解する。電流がする仕事(電力量)WがIVt [J] に等しいことを理解する。	導体内にある自由電子の様子について理解する。運動エネルギーが陽イオンに与えられ、陽イオンの熱運動が激しくなると導体の温度が上がることを理解する。またその際に発生する熱をジュール熱とよぶこと、および、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解する。電流がする仕事(電力量)WがIVt [J] に等しいことを理解する。		○	
学年末考査				○	○	○
2月	第4編 電気 第2章 磁場と交流 1 電流と磁場	電流がつくる磁場について理解する。電流が磁場から受ける力について説明し、直流モーターのしくみを理解する。コイル内に磁石を出し入れさせたときに、検流計の針が振れる電磁誘導の現象を理解する。	磁石の性質を示し、磁力線の説明へと進める。直線電流が周囲につくる磁場、円形電流が円の中心につくる磁場、ソレノイドがその内部につくる磁場の向きについて理解する。電流が磁場から受ける力について説明し、直流モーターのしくみを理解させる。コイル内に磁石を出し入れさせたときに、検流計の針が振れる電磁誘導の現象を理解する。		○	
3月	2 交流と電磁波	交流発電機のしくみを理解する。変圧器のしくみを理解する。電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、γ線が含まれ、波の性質をもっていることを理解する。	交流の電圧は時間的に変化する、その電圧の波形には最大値や0となる瞬間があることを理解する。交流発電機のしくみを理解する。変圧器は交流の電圧を変えていること、および、一次コイルと二次コイルの交流電圧の比は、一次コイルと二次コイルの巻数の比に等しいことを理解する。電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、γ線が含まれ、波の性質をもっていることを理解する。		○	○

教科・科目	化学基礎	使用教科書	化学基礎（実教出版）
単位数	2	使用副教材	高校化学基礎カラーノート新課程版（実教出版）
対象学年・学科	1年 農業科2年 普通科 観光ビジネスコース・文系		
科目の概要と目標	・化学に関する事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 ・自然界や産業界にある事象・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 ・自然の事象・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 ・自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思考	主体
4月	1章 物質の構成 1節 物質の探究 1 物質の分類と性質	混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることを理解する。また、混合物から目的の物質を分離するには、物質の性質にあわせた方法があることを知る。元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。	身のまわりの物質を純物質と混合物に分類することができる。実験の基本操作と検出方法について理解し、物質を探究するための具体的な方法を身につける。また、実験結果を考察し、発表することができる。 【実験】混合物の分離	○		○
	2 物質と元素	元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。	物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 【実験】硫黄の同素体をつくる、炎色反応			○
	3 物質の三態と熱運動	粒子の熱運動と温度および物質の三態変化との関係について理解する。	身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心をもち、それらを意欲的に探究しようとする。粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解し、物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができる。	○	○	
5月	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造	原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。同位体の定義とその性質を理解する。	物質が原子から成り立っていることを理解する。また、原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。原子は原子核と電子からなっていて、価電子が物質の性質を決めていることを推論・理解できる。また、同位体についての正しい知識を身につけている。	○	○	
	2 イオンの生成	陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。	単原子イオンの生成について理解できる。イオンの表し方を理解し、代表的な単原子イオン、多原子イオンを表すことができる。イオン化エネルギーと電子親和力について理解できる。	○	○	
	3 元素の周期表	元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	イオンの生成を電子配置と関連づけて考えることができる。元素の性質に興味をもち、元素の性質が周期的に変化することを探究しようとする。また、元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。	○		○
中間考査						
5月	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合とイオン結晶	陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。	イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。	○		
	2 イオン結合からなる物質	イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。	イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。水溶液中や溶解した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする。 【実験】沈殿反応による試薬の特定	○	○	
6月	2節 共有結合と分子間力 1 共有結合と分子 2 分子間力と分子結晶 3 共有結合からなる物質	分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。	共有結合を電子配置と関連づけて理解することができる。また、配位結合について理解している。分子の電子式・構造式を書くことができる。分子の模型を利用して、分子の結合と形について考えることができる。電気陰性度を理解し、分子の形とあわせて極性について考えることができる。「実験 分子の極性と溶解」を行い、極性についての理解を深め、実験で得た知識を発表することができる。 【実験】分子の極性と溶解	○	○	○
	3節 金属結合 1 金属結合と金属結晶 2 金属	金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。	金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。	○		
	4節 化学結合と物質 1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質	それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。	1～3節で学習した化学結合の種類を系統だてて理解している。身近な物質を化学結合の種類と結びつけて考えることができる。	○		○
期末考査						
7月	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式 1 原子量と分子量・式量	非常に小さな質量の原子や分子の質量は、12Cを基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。	原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解できているとともに、物質量を用いた基本的な計算ができる。化学式が使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身につけている。	○		
9月	2 物質量	原子量や分子量などに単位グラムをつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が6.0×10 ²³ 個で、この粒子の集団を1 mol ということを知る。	物質量について、その定義と粒子数との関係を理解できる。物質量と質量の関係について理解できる。アボガドロの法則を理解し、物質量と気体の体積の関係を理解できる。物質量と粒子数、質量、気体の体積の相互関係を理解し、計算で求めることができる。	○	○	
	3 溶液の濃度	溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。	モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解し、質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。	○	○	
10月	4 化学反応式	簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。化学反応式の係数比は、物質量比(気体の場合には、さらに体積比)を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。	基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現する。いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。 【実験】化学反応における量的関係	○	○	○
中間考査						
10月	2節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 酸と塩基の分類	酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。	酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基の反応を捉えることができる。酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。	○		
11月	3 水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。	酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解し、pHの指標の便利さと実用性を理解している。	○		
	4 中和反応と塩	酸と塩基が反応するとたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。H ⁺ とOH ⁻ とが1:1で反応することを知り、中和滴定の計算を理解する。	中和反応における量的関係を理解している。中和滴定の実験により、メスフラスコ、ビュレット、ホールビベットなどの実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を習得している。	○	○	○
期末考査						
12月, 1月	3節 酸化還元反応 1 酸化と還元	酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。とくに、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元の関係を理解する。	酸化・還元反応の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。また、酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。	○		
	2 酸化剤と還元剤	酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。	酸化剤・還元剤について理解し、酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができる。また、イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。酸化還元反応の量的関係を理解している。	○	○	
2月	3 金属の酸化還元	金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。	金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。	○		
学年末考査						
2月, 3月	4 酸化還元反応の応用	日常生活や社会との関わりの例として、電池や金属の製錬を理解する。	電池のしくみを、酸化還元反応の視点で理解することができる。ダニエル電池のしくみと電極での反応を理解することができる。鉄、銅、アルミニウムの製錬方法について、理解することができる。	○		

教科・科目	化学基礎	使用教科書	化学基礎 (実教出版)
単位数	2	使用副教材	アクセスノート 化学基礎 (数研出版)
対象学年・学科	2年 普通科 理系・自然科学コース		
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 化学に関する事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事象・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 自然界や産業界にある事象・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 自然の事象・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基礎となる化学に対する興味・関心を高めている。 		

実施時期	単元	学習内容	到達目標	知識	思考力	主体
4月	1章 物質の構成 1節 物質の探究 1 物質の分類と性質	混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることを理解する。また、混合物から目的の物質を分離するには、物質の性質に合わせた方法があることを知る。元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。	身のまわりの物質を純物質と混合物に分類することができる。 実験の基本操作と検出方法について理解し、物質を探究するための具体的な方法を身につける。また、実験結果を考察し、発表することができる。 【実験】混合物の分離	○		○
	2 物質と元素	元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。	物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。 【実験】硫黄の同素体をつくる、炎色反応			○
	3 物質の三態と熱運動	粒子の熱運動と温度および物質の三態変化との関係について理解する。	身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心をもち、それらを意欲的に探究しようとする。 粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解し、物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができる。	○	○	
5月	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造	原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 同位体の定義とその性質を理解する。	物質が原子から成り立っていることを理解する。また、原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。 原子は原子核と電子からなっていて、価電子が物質の性質を決めていることを推論・理解できる。また、同位体についての正しい知識を身につけている。	○	○	
	2 イオンの生成	陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。	単原子イオンの生成について理解できる。 イオンの表し方を理解し、代表的な単原子イオン、多原子イオンを表すことができる。 イオン化エネルギーと電子親和力について理解できる。	○	○	
	3 元素の周期表	元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	イオンの生成を電子配置と関連づけて考えることができる。 元素の性質に興味をもち、元素の性質が周期的に変化することを探究しようとする。また、元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。	○		○
中間考査	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合とイオン結晶	陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。	イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。	○		
	2 イオン結合からなる物質	イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。	イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。 水溶液中や溶解した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。 イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする。	○	○	
	中間考査					
5月	2節 共有結合と分子間力 1共有結合と分子 2分子間力と分子結晶 3共有結合からなる物質	分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。	共有結合を電子配置と関連づけて理解することができる。また、配位結合について理解している。 分子の電子式・構造式を書くことができる。分子の模型を利用して、分子の結合と形について考えることができる。 電気陰性度を理解し、分子の形とあわせて極性について考えることができる。【実験】分子の極性と溶解性を行い、極性についての理解を深め、実験で得た知識を発表することができる。 【実験】分子の極性と溶解	○	○	○
	3節 金属結合 1金属結合と金属結晶 2金属	金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。	金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。	○		
	4節 化学結合と物質 1結晶の分類 2化学結合と身のまわりの物質	それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。 それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。	1~3節で学習した化学結合の種類を系統だてて理解している。 身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。	○		○
6月	3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 1 原子量と分子量・式量	非常に小さな質量の原子や分子の質量は、12Cを基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。	原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解できるとともに、物質量を用いた基本的な計算ができる。 化学式が使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身につけている。	○		
	2 物質量	原子量や分子量などに単位グラムをつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が6.0×10 ²³ 個で、この粒子の集団を1 mol ということを知る。	物質量について、その定義と粒子数との関係を理解できる。 物質量と質量の関係について理解できる。 アボガドロの法則を理解し、物質量と気体の体積の関係を理解できる。	○	○	
	3 溶液の濃度	溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。	物質量と粒子数・質量・気体の体積の相互関係を理解し、モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解し、質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。	○	○	
7月	4 化学反応式	簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。 化学反応式の係数比は、物質量比(気体の場合には、さらに体積比)を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。	基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現する。 いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとする。また、意欲的にそれらを探究しようとする。 【実験】化学反応における量的関係	○	○	○
	2節 酸と塩基 1酸と塩基 2酸と塩基の分類	酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。	酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基の反応を捉えることができる。 酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。 酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。	○		
	3 水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。	酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解し、pHの指標の便利さと実用性を理解している。	○		
10月	4 中和反応と塩	酸と塩基が反応するとたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。H ⁺ とOH ⁻ が1:1で反応することを知り、中和滴定の計算を理解する。	中和反応における量的関係を理解している。中和滴定の実験により、メスフラスコ、ビュレット、ホールビベットなどの実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係を濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を習得している。	○	○	○
	3節 酸化還元反応 1 酸化と還元	酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。とくに、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元との関係を理解する。	酸化・還元を定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。また、酸化数の定義を理解し、これらを用いて酸化還元反応を見出すことができる。	○		
	2 酸化剤と還元剤	酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。	酸化剤・還元剤について理解し、酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができる。また、イオン反応式から反応全体の化学反応式を書くことができる。酸化還元反応の量的関係を理解している。	○	○	
中間考査	3 金属の酸化還元	金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向と反応性の関係を探る。	金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。	○		
	3 酸化還元反応の応用	日常生活や社会との関わり例として、電池や金属の製錬を理解する。	電池のしくみを、酸化還元の視点で理解することができる。 Daniell電池のしくみと電極での反応を理解することができる。 鉄、銅、アルミニウムの製錬方法について、理解することができる。	○		
	中間考査	「化学基礎」終了後、化学へ				

教科・科目	理科・生物基礎	使用教科書	第一学習社 183-901 高等学校 改訂 生物基礎
単位数	1	使用副教材	セミナーノート生物
対象学年・学科	1 学年・普通科		
科目の概要と目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	第1編・第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 第2節 生物とエネルギー	(第1節) ・生物の種類と分類方法について。 ・生物の種ごとの共通性と多様性について。 ・生物の種と進化の関係性について。 (第2節) ・エネルギーと代謝について。 ・光合成と呼吸の仕組みについて。 ・酵素の特徴と代謝との関係性について。	(第1節) ①すべての生物に共通する特徴を理解する。 ②生物が共通する特徴をもつ理由を理解する。 (第2節) ①生命活動とエネルギーの関係について理解する。	○	○	
5月		中間考査				
5月	第1編・第1章 生物の特徴 第2節 生物とエネルギー	(第2節) ・光合成と呼吸の仕組みについて。 ・酵素の特徴と代謝との関係性について。	(第2節) ②代謝の過程でATPが担う役割について理解する。 ③代謝は、酵素の働きによって円滑に進むことを理解する。	○	○	
6月	第1編・第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 第2節 遺伝情報とタンパク質	(第1節) ・遺伝物質と、DNAとの構造について。 ・細胞分裂とDNAの分配、量の変化について。 ・DNAの半保存的複製について。 (第2節) ・タンパク質の構造と機能について。 ・転写と翻訳の仕組みについて。 ・遺伝情報と突然変異について。 ・遺伝子とゲノム、細胞の分化について。	(第1節) ①DNAの構造の特徴を理解する。 ②DNAは細胞分裂に伴って複製・分配され、からだを構成するすべての細胞は同じ遺伝情報をもつことを理解する。 (第2節) ①DNAの遺伝情報にもとづいてタンパク質がつくられる過程を理解する。 ②ゲノム、染色体、遺伝子の関係をDNAにもとづいて理解する。 ③細胞の分化は、特定の遺伝子の発現にもとづくことを理解する。	○	○	
7月		期末考査				
7月	第2編・第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持	(第1節) ・体内の恒常性と、自律神経系について。	(第1節) ①体内における情報の伝達とからだの調節の関係を理解する。 ②体内環境が維持されるしくみについて理解する。	○	○	
9月	第2編・第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持 第2編・第3章 ヒトのからだの調節 第2節 免疫	(第1節) ・体内の恒常性と、内分泌系について。 ・自律神経系と内分泌系の関係性について。 ・血糖値の調節について。 ・腎臓の役割について。 ・血液凝固について。 (第2節) ・白血球の種類と役割について。 ・自然免疫について。	(第1節) ②体内環境が維持されるしくみについて理解する。 (第2節) ①ヒトには、病原体からからだを守るしくみが備わっていることを理解する。 ②自然免疫と獲得免疫のそれぞれのしくみについて理解する。 ③自然免疫と獲得免疫の関わりについて理解する。 ④免疫のしくみの異常に関わる疾患や医療について理解する。	○	○	○
10月		中間考査				
10月	第2編・第3章 ヒトのからだの調節 第2節 免疫	(第2節) ・獲得免疫(細胞性免疫、体液性免疫)について。 ・抗体産生と二次応答について。 ・免疫と疾病、医療について。	(第2節) ②自然免疫と獲得免疫のそれぞれのしくみについて理解する。 ③自然免疫と獲得免疫の関わりについて理解する。 ④免疫のしくみの異常に関わる疾患や医療について理解する。	○	○	○
11月	第3編・第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移	(第1節) ・植生の特徴と分類について。 ・森林の構造と光環境について。 ・光合成速度と光補償点の関係について。 ・遷移の仕組みについて。	(第1節) ①陸上には森林や草原など、さまざまな植生がみられることを理解する。 ②植生は、周囲の環境と互いに関わりをもちながら、移り変わっていくことを理解する。	○	○	
12月		期末考査				
12月	第3編・第4章 植生と遷移 第2節 バイオーム 第3編・第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と生物の多様性	(第2節) ・世界のバイオームの種類と特徴について。 ・日本のバイオームの種類と特徴について。 ・垂直分布、水平分布について。 (第1節) ・生態系の仕組みと構造について。 ・生態系内の生物同士の関わりについて。	(第2節) ①地球上の多様な環境におけるバイオームの形成とその分布について理解する。 ②バイオームは、気候と密接な関わりをもって形成されていることを理解する。	○	○	○
1月	第3編・第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と生物の多様性 第3編・第5章 生態系とその保全 第2節 生態系のバランスと保全	(第1節) ・生態系内の種内関係、種間関係について。 (第2節) ・生態系のバランスと安定性について。 ・河川浄化とその仕組みについて。 ・攪乱について。 ・外来生物とその影響について。 ・里山の維持について。 ・絶滅危惧種について。 ・生態系サービスとSDGsについて。	(第1節) ①生態系の成り立ちと生態系を構成する生物種の多様性について理解する。 ②生態系における生物間の関係性や、それが生態系へ与える影響について理解する。 (第2節) ①生態系を構成する要素は、一定の範囲内で常に変動しつつ、生態系全体としてはバランスが保たれていることを理解する。 ②生態系の保全の重要性を理解し、保全のために私たちができることを考える。	○	○	
2月		学年末考査				

教科・科目	保健体育・保健	使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
単位数	1単位	使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）
対象学年・学科	1年 普通科・農業科		
科目の概要と目標	健康の考え方、現代の感染症とその予防、生活習慣病などの予防と回復、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、精神疾患の予防と回復について、「安全な社会生活」では、安全な社会づくり、応急手当について理解するとともに、課題を見つけ、その解決に向けて考え、表現できるようにする。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	○現代社会と健康 ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた	・わが国の現在の健康水準や健康問題の変化、および今日の健康課題について学ぶ。健康の成立要因をふまえて、自分なりの健康の捉え方について考える。	・健康の考え方について理解できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解できる。	○		○
5月	○現代社会と健康 ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復	・生活習慣病の種類とその要因について学ぶとともに、予防、早期発見、個人や社会の対策について考える。 ・わが国の死因の第1位となっているがんについて、その種類、原因、予防、治療について学ぶとともに、社会的対策の現状と必要性について考える。	・生活習慣病の種類と要因について理解できる。	○	○	○
中間考査						
6月	○現代社会と健康 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康	・運動、食事、休養・睡眠といった生活習慣が、生活習慣病の予防をはじめ、健康の保持増進に大きく関連していることを学ぶとともに、人々が適切なライフスタイルを身につけるための対策を考える。	・健康と運動の関係について理解できる。 ・食事と健康の関係について理解できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解できる。	○	○	
期末考査						
7月	○現代社会と健康 ・喫煙と健康	・喫煙、が心身にもたらす健康問題と社会問題について学ぶとともに、それらの問題を改善するための、個人や社会の対策について考える。	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解できる。	○		○
9月	○現代社会と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	・飲酒、薬物乱用が心身にもたらす健康問題と社会問題について学ぶとともに、それらの問題を改善するための、個人や社会の対策について考える。	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解できる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解できる。	○	○	○
10月	○現代社会と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復	・おもな精神疾患と要因、予防と治療、また精神保健の今日的課題について学ぶとともに、精神疾患の適切なケアのための社会環境について考える。	・精神疾患の発病の要因とおもな症状について理解できる。 ・精神疾患を予防する方法について理解できる。 ・精神疾患の治療について理解できる。		○	○
中間考査						
11月	○現代社会と健康 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	・新興感染症や再興感染症といった現代の感染症の現状と今日的課題、予防対策について学ぶ。また性感染症・エイズの実態と課題について、日本および世界の現状を学ぶ。また感染症予防について、個人や社会の対策について考える。	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて理解できる。 ・感染症の予防対策の3原則について理解できる。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解できる。	○	○	
期末考査						
12月	○現代社会と健康 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	・健康の保持増進のための意思決定・行動選択の重要性と影響する要因について学び、よりよい意思決定・行動選択の方法や工夫の仕方について学ぶ。また健康づくりには、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりが重要であることを学ぶ。	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解できる。 ・社会環境の健康への影響について理解できる。	○	○	
1月	○安全な社会生活 ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全	・わが国の不慮の事故の実態と事故発生に関連する要因について学ぶとともに、安全な社会を形成するための個人や社会の対策について考える。また、交通事故の防止の観点から、運転者の責任、個人や社会の対策等について考える。	・事故の実態と被害の実態について理解できる。 ・安全のために必要な個人の行動について理解できる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解できる。	○	○	○
2月	○安全な社会生活 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	・けがや急病に対する応急手当の意義や方法について学び、日常的な応急手当ができるようにする。また、心肺停止状態の人の命を救うために行う心肺蘇生法の意義と方法を学び、実習を通して正しく実施できるようにする。	・応急手当の意義について理解できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解できる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について理解できる。	○		○
学年末考査						

教科・科目	保健体育・保健	使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
単位数	1単位	使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）
対象学年・学科	2年 普通科・農業科		
科目の概要と目標	生涯の各段階における健康、労働と健康について、「健康を支える環境づくり」では、環境と健康、食品と健康、保健・医療サービスおよび医薬品の制度とその活用、さまざまな保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解するとともに、課題を見つけ、その解決に向けて考え、表現できるようにする。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	○生涯を通じる健康 ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択	・各ライフステージの健康課題と社会からの支援について学ぶ。 ・思春期における体と心の変化、思春期に起こりやすい健康問題について理解を深める。また、性意識やその男女差を知り、適切な意思決定・行動選択について考える。	・ライフステージと健康の関連について理解できる。 ・思春期における体の変化について理解できる。 ・性意識の男女差について理解できる。	○	○	○
5月	○生涯を通じる健康 ・妊娠出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶	・妊娠・出産に伴う健康問題について学び、健康的な妊娠・出産をするための対策と母子保健サービスの活用について考える。また、望まない妊娠の問題点を考えると同時に、適切な避妊法について学ぶ。	・妊娠・出産の過程における健康問題について理解できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。	○	○	
中間考査						
6月	○生涯を通じる健康 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康	・結婚生活を健康に過ごすための条件について学ぶとともに、健康な結婚生活に必要な考え方や行動について考える。 ・加齢による中高年の健康リスクを低下させるための対策について学び、高齢社会に必要な社会の取り組みについて考える。	・心身の発達と結婚生活の関係について理解できる。 ・加齢にともなう心身の変化について理解できる。	○	○	
期末考査						
7月	○生涯を通じる健康 ・働くこと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活	・働くことの意義や働くことによって起こる健康問題について理解を深める。また労働が原因で起こるけがや病気を防止するための対策について学び、健康的な職業生活を送る上での取り組みや余暇の活用の仕方を考える。	・働くことの意義と健康のかかわりについて理解できる。 ・労働災害の種類とその原因について理解できる。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて理解できる。	○		○
9月	○健康を支える環境づくり ・大気汚染と健康 ・水質汚染、土壌汚染と健康	・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の健康への影響について学び、地球規模で起こっている環境問題について、人々の健康と関連づけて考える。	・大気汚染の原因と健康への影響について理解できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響について理解できる。	○	○	○
10月	○健康を支える環境づくり ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備	環境汚染による健康被害を防ぐためのしくみについて学ぶとともに、自分たちにできる環境対策について考える。また、ごみ処理、上下水道整備、し尿処理といった環境衛生活動の重要性と現状について学ぶ。	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について理解できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について理解できる。		○	○
中間考査						
11月	○健康を支える環境づくり ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性に関する今日的課題と、食品の安全性を確保するしくみについて学ぶとともに、食の安全を守るために人々に求められる役割を考える。	・食品の安全性と健康とのかかわりについて理解できる。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について理解できる。	○	○	
期末考査						
12～1月	○安全な社会生活 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用	・わが国における保健・医療制度とさまざまな保健・医療サービスについて学ぶとともに、有効な活用の仕方を考える。 ・医薬品の種類と正しい使い方、および医薬品の安全性を守る取り組みについて学ぶとともに、有効な使用方法について考える。	・保健行政の役割について理解できる。 ・わが国における医療保険のしくみについて理解できる。 ・医薬品の正しい使用方法について理解できる。	○	○	○
2月	○安全な社会生活 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加	・国内では人々の健康づくりのために自治体や行政機関による対策が行われており、さらに国の枠を超えた保健活動や対策がとられていることを学ぶ。また、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりや社会参加について考える。	・国際機関・民間機関などの保健活動について理解できる。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて理解できる。	○		○
学年末考査						

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	保健体育・体育	使用教科書	なし
単位数	3単位	使用副教材	なし
対象学年・学科	1年 普通科・農業科		
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	○体づくり運動	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。			○
5月	○陸上競技（種目内選択）	・競走、跳躍、投擲	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを身につけることができる。 ・自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている。	○		○
中間考査						
6月	○領域選択①	・ソフトテニス ・ソフトボール ・バスケットボール	・自己の役割を理解し、相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームを行うことができる。 ・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。	○	○	
期末考査						
7月	○体育理論	・スポーツの発祥と発展	・スポーツの歴史や理念の変遷について理解することができる。 ・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について主体的に学習に取り組もうとしている。	○		○
9月・10月	○領域選択②	・サッカー ・バレーボール ・卓球	・自己の役割を理解し、相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームを行うことができる。 ・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。	○	○	
中間考査						
11月	○領域選択③	・バレーボール ・武道 ・ダンス	・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。 ・武道に関する伝統的な考え方を理解し、礼儀作法を身につけ練習や試合ができる。 ・リズムカルな身体運動を通じて、表現する楽しさを味わうことができる		○	○
期末考査						
12月	○体育理論	・スポーツの発祥と発展	・現代のスポーツの役割や経済的な効果、文化的な価値を理解することができる。 ・スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について主体的に学習に取り組もうとしている。	○		○
1月・2月	○領域選択④	・バスケットボール ・バドミントン ・卓球	・自己の役割を理解し、相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームを行うことができる。 ・安定したボール操作や連携した動きによって攻防が展開できるようになる。	○	○	
学年末考査						

教科・科目	保健体育・体育	使用教科書	なし
単位数	2単位	使用副教材	なし
対象学年・学科	2年 普通科・農業科		
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	○体づくり運動	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切しようとしている。			○
5月	○陸上競技（種目内選択）	・競走、跳躍、投擲	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを身に付けることができる。 ・自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている。	○		○
中間考査						
6月	○領域選択①	・サッカー ・ソフトボール ・ソフトテニス ・ダンス	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開できる。 ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わうことができる。	○	○	
期末考査						
7月	○体育理論	・豊かなスポーツライフの設計の仕方	・豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解できる。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断することができる。	○	○	
9・10月前半	○領域選択②	・ソフトボール ・バレーボール ・バドミントン ・武道	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高める中で得意技を身に付け、それを用いての攻防ができるようになる。	○		○
中間考査						
10月後半～11月	○領域選択③	・サッカー ・バスケットボール ・ソフトテニス ・ダンス	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。		○	○
期末考査						
12月	○体育理論	・豊かなスポーツライフの設計の仕方	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組むことができる。	○		○
1～2月	○領域選択④	・バスケットボール ・バドミントン ・卓球 ・ダンス	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。	○	○	
学年末考査						

年間指導・評価計画

教科・科目	保健体育・体育	使用教科書	なし
単位数	2単位	使用副教材	なし
対象学年・学科	3年 普通科・農業科		
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	○体づくり運動	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切しようとしている。 ・話し合いに貢献しようとしたり、健康・安全を確保しようとしている。			○
5月	○陸上競技（種目内選択）	・競走、跳躍、投擲	・自己の課題を設定し、その解決方法を発見し、合理的な解決ができるような計画を立てて、記録を高めることができる。	○		○
中間考査						
6月	○領域選択①	・サッカー ・ソフトボール ・ソフトテニス ・ダンス	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。	○	○	
期末考査						
7月	○体育理論	・豊かなスポーツライフの設計の仕方	・豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解できる。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断することができる。	○	○	
9・10月前半	○領域選択②	・ソフトボール ・バレーボール ・バドミントン ・武道	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・基本技能を高める中で得意技を身に付け、それを用いての攻防ができるようになる。	○		○
中間考査						
10月後半～11月	○領域選択③	・サッカー ・バスケットボール ・ソフトテニス ・ダンス	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。		○	○
期末考査						
12月	○体育理論	・豊かなスポーツライフの設計の仕方	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組むことができる。	○		○
1～2月	○領域選択④	・バスケットボール ・バドミントン ・卓球 ・ダンス	・基本技能を高め、チームとしての作戦や戦術を工夫したり、パートナーと連携して攻防を展開し、ゲームの楽しさを味わうことができる。 ・全身を使って自由に踊ることを課題として、仲間とともにダンスの楽しさを味わうことができる。	○	○	
学年末考査						

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	芸術・音楽 I	使用教科書	高校生の音楽1 (教育芸術社)
単位数	2単位	使用副教材	
対象学年・学科	1年 普通科・1～3組 農業科・4組		
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		

実施時期	単元	学習内容	到達目標	知識	思判表	主体
1 学期	正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう	歌うときの基本的な姿勢や呼吸、発声を身に付け、自己のイメージをもって歌詞の内容を理解し、曲にふさわしい発声で表現を工夫して歌う	・歌うときの姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して歌唱することができる ・歌詞の内容を捉え、曲想との関わりを理解できる ・曲のもつ雰囲気や味わいを理解して歌唱することができる ・旋律の特徴や言葉の抑揚を理解して、イメージに合った表現を工夫することができる	○		○
	音色を工夫したり、リズムパターンを変化させたりしてリズム合奏を楽しもう	手拍子やボディーパーカッション、唱歌、打楽器などを用いて、音色を工夫したりリズムパターンを即興で変化させたりしてリズム合奏の表現を創意工夫して演奏する	・提示されたリズムパターンを表現することができる ・手拍子やボディーパーカッション、唱歌、打楽器などを組み合わせて、リズムパターンを生き生きと演奏することができる ・反復、変化、対照などの手法を活用して、リズムパターンを変化させて演奏することができる	○		○
	これは音楽だといえるだろうか？音楽って何だろう？	身の回りのさまざまな音を聴いて「音楽とは何か」を考え、ジョン・ケージの《4分33秒》などを例にさまざまな音楽のあり方に気付く	・身の回りの音、音楽や多様な音楽について、先入観なくその音楽の特質を聴取できる ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、多様な音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる ・さまざまな音や音楽を通して、音楽について再考する鑑賞の学習活動に主体的・協働的に取り組むことができる	○	○	
	世界のさまざまな音楽について学ぼう	世界の音楽の中からアジア地域の諸外国の音楽について、地域の風土や生活、文化や伝統などと地理的・社会的背景を通して理解することにより、音楽的視野を広げる	・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解を深める ・音楽の諸要素を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、ともに、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く ・調べ学習を通して、地域の風土や生活、文化や伝統と、それらが育んだ音楽との関わりを理解することに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる	○	○	○
	日本語の響きや歌詞の内容、曲の背景を理解して、ふさわしい歌声で表現しよう	日本語を美しく歌うため、鼻濁音やs音、t音などの子音に注意して歌唱する。また、歌詞の内容や曲の背景を理解して、情景を思い描いて詩情に合った歌唱表現を工夫する	・鼻濁音やs音、t音などの子音に注意し、日本語の美しい発音に留意して歌うことができる ・歌詞の内容を理解し、作曲者の表現指示をもとに、ふさわしい表現を工夫することができる	○	○	
	三味線の奏法を知り、音色を味わいながら弾き歌いを楽しもう	三味線の構造や奏法を学び、三味線の唱歌を歌ったり実際に演奏したりしながら三味線の特徴を生かして演奏する	・三味線の構造や奏法を理解できる ・《かごめかごめ》の唱歌を唄い、旋律の動きを理解できる ・余韻の変化や間を理解して知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたり、弾き歌いしたりすることができる	○		○
2 学期	イタリア語の発音の特徴を捉え、曲の雰囲気を楽しみながら歌おう	イタリア語の発音の特徴を捉え、リズムや旋律との関わりを理解し、歌詞の内容と曲の雰囲気に合った表現を工夫して歌う	・イタリア語の発音の特徴を理解できる ・イタリア語のアクセントやリズムや旋律との関わりを理解し、ふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている ・歌詞の内容を理解し、自己のイメージをもって表現を工夫して歌唱で表現することができる	○	○	
	ギターのような奏法を学び、曲の雰囲気に合った表現を工夫しよう	《Happy Birthday》で用いられているコードをギターで弾き、ギターアンサンブルや弾き語りで、個性豊かな器楽表現を創意工夫する	・ギターのG、C、D7のコードのポジションを覚えていく ・様々な奏法を学び、ベースラインとメロディーを弾くことができる ・弾き語りで個性豊かな表現を創意工夫している ・楽しみながら、ギターアンサンブルや弾き語りの表現に主体的に取り組むことができる	○		○
	歌舞伎《京鹿子娘道成寺》を鑑賞したり、長唄を唄ったりして、歌舞伎音楽の特徴を感じ取ろう	柘屋弥三郎が作曲した《京鹿子娘道成寺》の長唄を唄ったり、三味線を聴いたりすることで歌舞伎に親しむとともに、歌舞伎音楽のよさや美しさを深く味わう	・歌舞伎《京鹿子娘道成寺》のあらすじを理解できる ・長唄の特徴を知り、模倣しながら唄うことができる ・長唄三味線の演奏を聴いて三味線の特徴や合方の役割について理解し、歌舞伎音楽のよさや美しさを味わうことができる		○	○
	物語と音楽との関わりを理解し、《魔法使いの弟子》で作曲者が工夫したことを探求しよう	作品に影響を与えたゲーテの詩『魔法使いの弟子』を読み、情景を思い浮かべながら曲を鑑賞し、登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて考察する	・『魔法使いの弟子』の情景を思い浮かべながら曲を鑑賞することができる ・水、ほうき、弟子、呪文の旋律をそれぞれ知覚し、それらの相互関係によって音楽の構造がつけられていることを理解できる ・登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて主体的・協働的に話し合うことができる	○	○	○
	ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章を聴いて、この曲に込められた作曲者の思いを話し合おう	ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章の曲の構成やシラーによる歌詞の内容を理解して、音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める	・曲の構成や歌詞の内容を理解できる ・オーケストラ、独唱、四重唱、合唱を伴った壮大な音楽の世界を味わうことができる ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている	○	○	○
	オノマトペを素材にミニマル・ミュージックをつくろう	変奏や編曲について理解するとともに、《Inどっど》を参考に同じ演奏方法によるミニマル・ミュージックを作って演奏する	・《Inどっど》の演奏方法をよく読んで理解する ・テーマを決めて構成を考えながらイメージに合うオノマトペをワークシートに記入し、リズムや音高を考える ・創作表現の学習活動に主体的・協働的に取り組み、完成した作品をグループごとに発表することができる	○	○	○
3 学期	歌詞に込められた主張を受け止めて歌おう	ポピュラー音楽のジャンルや歌詞に込められたアーティストの主張を理解して、歌い方や表現を工夫するとともに、芸術活動を支える著作権についての理解を深める	・ポピュラー音楽のジャンルを理解できる ・英語歌詞の内容についてその背景を含めて理解できる ・歌詞の内容にふさわしい表現を考えて演奏することができる ・芸術活動を支える著作権について理解できる	○	○	
	《六段の調》の唱歌をよく聴いて覚え、箏の演奏に生かそう	縦譜の読み方や箏の構造、奏法を学び、《六段の調》の唱歌を歌うことで旋律の動きや余韻の変化、間などを理解し、箏の特徴を生かして演奏する	・縦譜の読み方や箏の構造、奏法を理解できる ・《六段の調》の唱歌を唄い、旋律の動きを理解できる ・余韻の変化や間を理解し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように《六段の調》を演奏するかについて創意工夫している		○	
	各パートの役割を理解して、アンサンブル演奏を楽しもう	各パートの役割やリズム、旋律の特徴を理解して、表現上の効果を生かしてアンサンブル演奏を楽しむ	・キーボードの弾き方やギターのタブ譜の読み方を理解できる ・主体的に練習に取り組み、アンサンブル活動を楽しむことができる ・各パートをよく聴き合い、音量バランスを考えながらアンサンブル演奏をすることができる	○		○

年間指導・評価計画

富山県立入善高等学校

教科・科目	芸術・美術 I	使用教科書	美術 1 (光村図書)
単位数	2 単位	使用副教材	
対象学年・学科	1 年 普通科・1～3組 1 年 農業科・4組		
科目の概要と目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中での美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	美術 I オリエンテーション	・美術 I の意義について考える。 ・1年間の題材案紹介 ・美術の体裁 (4コマ漫画作成・鑑賞)	・美術 I の意義や学習内容について知り、展望を持つ。 ・発想を広げる活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○
5月	教科書作品模写	・教科書作品鑑賞・マイバスト5決定 ・教科書作品模写 ・模写作品を鑑賞し合い、作者の意図や心情について考える。	・自分の好きな教科書作品を選び、その構図や配色を正確に模写することで家の作品世界への理解を深める。 ・模写を通して発見した作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、工夫を言葉に的確に伝えようとしている。	○	○	○
6月前半	日本人現代アート作家鑑賞① 村上隆	・村上隆の経歴と作品紹介 ・村上隆関連動画の視聴 ・村上隆についての自分の考えをまとめる。	・日本人現代アート作家の鑑賞活動を通して、現代社会とアートの多様な展開や関わりを知り、その発想や表現性の面白さへの関心を高めている。	○	○	
中間考査						
6月後半 7月	エッチング (銅版画) 中庭の植物と夢・空想・不思議の世界	・夢・不思議・空想の世界を描いた画家たち (北方ネサンスルやシュールレアリスム、水木しげる他) の鑑賞 ・エッチングの特徴、線と点の表現について知る。 ・学校中庭の植物スケッチ ・アイデアスケッチ制作 (図書室) ・様々なブレインストーミング ・アイデア3つ以上 ・アイデアスケッチ鑑賞 (K J 法) ・意図や工夫を感じ取り、自分のアイデアスケッチを見直す。	・北方ルネサンスやシュールレアリスム等の作品鑑賞を通して、夢や空想といったテーマの身近さや意義について理解を深める。 ・学校中庭の植物を手がかりに、自分の夢や空想の世界を組み合わせて主題を生成し、独創的な表現の構想を練っている。 ・エッチングの特性を生かした線・点の表現を工夫し、主体的にアイデアスケッチに取り組んでいる。 ・友達の意図や工夫を感じ取り、自分のアイデアスケッチを見直している。	○	○	○
期末考査						
9月前半	エッチング (銅版画) 削り・印刷作業	・線・点の表現を工夫して銅板をニードルで彫る。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。	・意図に応じて銅板やニードル等の用具の特性を生かすとともに、形や、構図などの表現を工夫し、主題を追求して創造的に表している。 ・自己を見つめ感じ取ったことや考えたことなどをもとにした表現の創造活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○
9月下旬	日本人現代アート作家鑑賞② 田中達也	・田中達也の経歴と作品紹介 ・田中達也関連動画の視聴 ・田中達也についての自分の考えをまとめる。	・日本人現代アート作家の鑑賞活動を通して、現代社会とアートの多様な展開や関わりを知り、その発想や表現性の面白さへの関心を高めている。	○	○	
10月	みたての世界を味わおう	・様々な写真作品の鑑賞 ・撮影にどの模型や身の回りのものを使用するか吟味する。 ・カメラの特性を踏まえ主題を生成する。 ・主題をもとに構図や光、カメラの動かし方などの構想を練り、撮影する。 ・使用する模型を変えて、合計3回撮影を行う。 ・構図や光などの構想を練り、撮影する。 ・完成作品を鑑賞し合う。	・カメラの特性を学び、撮影を通じて、カメラの構造や写真の原理 (シャッタースピードやカメラの動かし方による効果など) を体験的に理解を深めている。 ・カメラの特性を把握し、主題に合わせて主体的に撮影に取り組むことで、独自の写真・映像作品を作り上げている。	○	○	○
中間考査						
11月前半	色彩について	・「見る」ことについて ・色の3原色について ・加法混色・減法混色について ・錯視・色彩心理について ・配色について [演習] ①12色相環 ②明度・彩度対比	・視覚の原理、色彩心理、錯視など普段何気なく行っている「見る」ことの特性や生活への影響を知る。 ・色彩・配色の効果と身の回りのデザインとの関係について理解を深めている。 ・色彩演習に主体的に取り組む、色作りの知識と技術を高めている。	○	○	
11月後半	オリジナル ブックカバーデザイン	・デザインとは何か ・好きな小説の内容や雰囲気をもとに構図や配色・画材などの構想を練る。 ・ブレインストーミング ・アイデアスケッチ3つ以上	・話の内容や雰囲気から主題を生成し、構図や配色の効果やブックカバーの表・裏表紙の関係性などを工夫し、印象に残るデザイン表現の構想を練っている。	○	○	○
期末考査						
12月 1月前半	オリジナル ブックカバーデザイン	・アイデアスケッチをもとに、画材や表現方法を工夫して制作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、デザインの意図や工夫を感じ取り、話し合う。	・形や配色、画材などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、ブックカバーデザインを、話の内容や雰囲気捉えることを理解している。 ・意図に応じて画材や用具の特性を生かすとともに、表現方法などを工夫し、目的や計画をもとに創造的に表している。	○	○	○
1月後半	日本人現代アート作家鑑賞③ 森山泰昌	・森村泰昌の経歴と作品紹介 ・森村泰昌関連動画の視聴 ・森村泰昌についての自分の考えをまとめる。	・日本人現代アート作家の鑑賞活動を通して、現代社会とアートの多様な展開や関わりを知り、その発想や表現性の面白さへの関心を高めている。	○	○	
1月後半 2月	自己を表す (油彩) 下描き・着彩	・油彩画で自己を表すことに関心を持ち、自分を見つめ感じ取ったことから主題を生成する。 ・ブレインストーミング ・主題をもとに、表現方法や用具の使い方などの構想を練る。 ・アイデアスケッチ3つ以上	・自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感を生かした創造的な表現の構想を練っている。 ・意図に応じて油彩の画材や用具・技法を選択し、その特性を生かすとともに、表現の形態や方法を工夫し、主題を追求して創造的に表している。	○	○	○
学年末考査						
3月	自己を表す (油彩) 着彩	・形や色、画材などを工夫し、油彩の用具の特性を生かして製作する。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り話し合う。	・主体的に自己を表した絵画の造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の意図や作品に込められた思いなどについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	○	○	○

年間指導・評価計画

教科・科目	芸術・書道 I	使用教科書	書 I (教育図書)
単位数	2 単位	使用副教材	
対象学年・学科	1 年普通科・1～3 組 1 年農業科・4 組		
科目の概要と目標	・書の表現の方法・形式・多様性を理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づいた表現の技能を身につける。 ・伝統・文化を通して書の美を感受し、価値を考え、意図に基づいた表現が工夫できる。 ・主体的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好し、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4 月	書へのいざない	・文房四宝に対する理解	・書写と書道の違いや目指すところを理解する。 ・用具の使用方法、手入れの方法を知り実践できる。	○	○	○
5 月	漢字の書「楷書の古典を学ぶ」	・楷書の特徴を理解し、鑑賞や臨書通して各古典の美を感じ、表現できるようになる。	・筆記具の持ち方、姿勢を身につける。 ・書の歴史・伝統、特に書体の変遷を理解し、古典を学ぶ意義を理解する。	○	○	○
		①「造像記」 ②「鄭義下碑」	・筆の弾力、毛のねじれ、毛先の開閉などの特性を生かし、意図に応じた表現を工夫し、表現できるようになる。	○	○	○
6 月	漢字の書「行書の古典を学ぶ」	③「孔子廟堂碑」 ④「九成宮禮泉銘」 ⑤「雁塔聖教序」	・古典の鑑賞を通じてそれぞれが持つ美の要素、書風などの特徴が感じ取れるようになる。	○	○	○
7 月		⑥「顔氏家廟碑」		○	○	○
9 月		⑦「偶寺心経」		○	○	○
10 月		・行書の特徴を理解し、鑑賞や臨書通して各古典の美を感じ、表現できるようになる。 ①「集王聖教序」	・行書の特徴を理解し、筆で表現できる。			
10 月		②「蘭亭序」 ③「争座位稿」	・古典の鑑賞を通じてそれぞれが持つ美の要素、書風などの特徴が感じ取れるようになる。	○	○	○
		④「風信帖」		○	○	○
11 月	漢字の書「創作」	①漢字一字による創作と鑑賞 ②漢字二字による創作	・感情を書で表現するための構想を立て、墨の濃淡や潤渴、筆づかいを意図に応じて工夫できる。		○	○
	仮名の書	・仮名の線、筆づかいの特徴を学ぶ	・漢字の線との違いを理解し、書けるようになる。	○	○	○
12 月	単体歴史	・平安時代のいろは歌を学ぶ ・片仮名、変体仮名、平仮名の歴史	・字源を知り、字形やリズムを習得する。 ・歴史を理解し、日本文化に果たした役割を考察することができる。	○	○	○
1 月	連面臨書 ちらし書き	・連綿の法則を知り、習得する。 ・高野切 ・三色紙を鑑賞し、ちらし書きの創作	・平安中期の古典の美を感じ取り、筆で再現できるようになる。 ・意図に応じ構成し工夫できる。	○	○	○
2 月	漢字仮名まじりの書	・漢字と仮名を調和させる方法を考える。 「本の題字」 「校歌」	・漢字・仮名の特徴を理解した上で、調和させる方法を考え、表現できるようになる。		○	○
3 月		「自由律俳句」	・表現の意図を持ち、筆づかいなどが工夫できるようになる。	○	○	○
		・自撰の言葉で作品制作	・意図に応じた表現が工夫できる。	○	○	○

教科・科目	外国語・英語コミュニケーション I	使用教科書	Revised BIG DIPPER English Communication I
単位数	3単位	使用副教材	・ワークブック
対象学年・学科	1年・普通科		
科目の概要と目標	グローバル社会で必要とされる発信力の土台を作る。社会的な話題を含む英文の要点を理解し、そこで得た情報をもとに自分ならどう思うかを英語で発信する活動を行う。プレゼンテーションや要約練習を通じ、論理的に情報を整理する力も養う。英文の内容についての質問や応答を行い、目的に応じて適切な語彙や表現を選択し、まとまりのある文章を作成し、他者の意見を尊重しながら協働する力を養うことを目標とする。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
4月	Introduction 1,2	辞書の使い方や発音、アクセントについて学ぶ。	・指定された音韻について、正しい発音をすることができる。 ・強勢を意識しながら短い英文を読むことができる。	○		
4, 5月	LESSON 1	日本の伝統文化である和菓子の魅力や和菓子の歴史に関する文章、簡単に作れるいちご大福のレシピの内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
中間考査						
5月	LESSON 2	電話の変遷やスマートフォンの良い点・悪い点について書かれた文章や、デジタルデトックスのガイドの内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
	Grammar for Expression 1	本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて文章を書く。 【現在形, 過去形, 未来を表す表現, 現在完了, 現在進行形, 文型〈SVC〉〈SV0〉, 不定詞, 動名詞】	・自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。 ・本文で扱った文法事項の用法について理解している。	○	○	○
6月	LESSON 3	2種類のリーダーシップについて書かれた文章や、リーダー適性チェックリストの内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
期末考査						
7月	LESSON 4	いろいろなスポーツの歴史と魅力について書かれた文章や、eスポーツに関するブログの内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
9月	Grammar for Expression 2	本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて文章を書く。 【受動態, 関係代名詞(who/which/that), 文型〈SV0102〉〈SVOC〉, 最上級, 比較級, 原級】	・自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。 ・本文で扱った文法事項の用法について理解している。	○	○	○
	LESSON 5	AI製品やAIによる芸術について書かれた文章や、インタビュー(AI芸術に対する評価)の内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
10月	LESSON 6	値付けの歴史やダイナミックプライシングに関する文章や、ダイナミックプライシングに関するさまざまな人々の意見を、読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
中間考査						
10月	Grammar for Expression 3	本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて文章を書く。 【名詞を修飾する分詞, 形式主語〈It is ~ that...〉, 形式主語〈It is ~ (for A) to do...〉, 過去完了, 関係副詞 where, when】	・自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。 ・本文で扱った文法事項の用法について理解している。	○	○	○
	LESSON 7	人気の観光地モルディブの魅力と問題について書かれた文章や、新聞記事(京都の観光公害)の内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
11月	LESSON 8	Kazu Hiroがどのようにして夢をかなえたかについて書かれた文章や、プレゼンテーション(Kazu Hiroのこぼれ話を紹介)の内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
期末考査						
12月	Grammar for Expression 4	本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて文章を書く。 【知覚動詞, 使役動詞, SV0+to-不定詞, SVOC(V=知覚動詞, C=現在分詞), 関係副詞 how, why, 関係代名詞 what, 強調構文】	・自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。 ・本文で扱った文法事項の用法について理解している。	○	○	○
12, 1月	LESSON 9	日本のゴミ事情, リサイクル, アップサイクルについて書かれた文章や, SNSのupcyclingの検索結果(アップサイクルへの賛否両論)の内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
2月	LESSON 10	日本企業のさまざまな取り組みについて書かれた文章や, 求人広告の内容を読み取る。	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○
学年末考査						
3月	Grammar for Expression 5	本文で扱った文法事項を理解し、それを用いて文章を書く。 【分詞構文, 間接疑問, 現在完了進行形, 過去完了進行形, 仮定法過去, 過去の習慣would, used to, 助動詞+be+過去分詞】	・自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。 ・本文で扱った文法事項の用法について理解している。	○	○	○

教科・科目	家庭・家庭基礎	使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 家基701）
単位数	2	使用副教材	最新生活ハンドブック 資料&成分表（第一学習社） とやまの高校生ライフプランガイド（富山県教育委員会）
対象学年・学科	2年 普通科		
科目の概要と目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思考	主体
4月	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために、ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	○
5月	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
中間考査						
5月	2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるように、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。	・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	○
6月	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
7月	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来	・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。	・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
期末考査						
7月	2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○	○
9月	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	○
10月	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。	・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
中間考査						
10月	3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。	・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
11月	5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。	・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
期末考査						
12月	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。	・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			○
1月	2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。 ・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。	・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	○
2月	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住居を求め理解する。	・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
2月	2 安全で快適な住生活の計画	・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。	・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○
学年末考査						
3月	3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	○

教科・科目	情報・情報 I	使用教科書	(実教7 情 I 705) 最新情報 I
単位数	2	使用副教材	最新情報 I 学習ノート, Life is Tech! Lesson(情報 I コース)
対象学年・学科	1年 普通科		
科目の概要と目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>		

実施時期	単元	学習内容	到達度目標	知識	思判表	主体
	【オリエンテーション】	中学校までの既習内容調査、PC基本操作、ファイル管理、共有フォルダ利用、教室利用ルールを理解する。	PCの基本操作、ファイル管理の方法を理解している。情報処理室や学習用端末の使用ルールを遵守できる。	○		
	【第1章 情報社会と私たち】 【1-1 情報社会】	情報社会の現状、データ・情報・知識の関係、ビッグデータについて理解する。情報の特性と影響、情報モラル、ネット依存について考える。	情報社会の現状、情報特性、モラル、影響について説明できる。	○	○	○
	【1-2 情報社会の法規と権利】	知的財産権、著作権、個人情報保護の重要性を理解する。著作物の適切な利用と公開、個人情報管理の方法を学ぶ。	知的財産権、著作権、個人情報保護の重要性を説明し、適切に活用・管理できる。	○	○	○
	【1-3 情報技術が築く新しい社会】	POSシステム、電子マネー、IoT、AIなど情報技術の活用事例と課題解決への応用を学ぶ。	情報技術の活用事例、課題解決への応用を説明できる。	○	○	○
	【第3章 システムとデジタル化】 【3-1 情報システムの構成】	コンピュータの構成と動作、ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。	コンピュータの構成、動作、ソフトウェア、インターフェースについて説明できる。	○	○	○
(1学期中間考査)	【3-2 情報のデジタル化】	アナログとデジタルの違い、2進数、情報量、演算の仕組み、数値・文字・音声・画像等のデジタル化について理解する。データの圧縮、情報セキュリティ、ネットワークの仕組み、データ転送速度について学ぶ。	デジタル化の原理、データ圧縮、情報セキュリティ、ネットワークの仕組みを説明できる。	○	○	○
	【第4章 ネットワークとセキュリティ】 【4-1 情報通信ネットワーク】	ネットワークの構成、通信方式、LAN、インターネットの仕組み、Webとメールの仕組み、データ転送速度と圧縮について理解する。	ネットワークの構成、仕組み、データ転送について説明できる。	○	○	○
	【4-2 情報セキュリティ】	情報セキュリティの重要性、脅威と対策、パスワード管理、マルウェア対策、不正アクセス対策、情報セキュリティポリシーについて理解する。暗号化技術、情報セキュリティ対策の実践を学ぶ。	情報セキュリティの重要性を理解し、適切な対策を講じることができる。	○	○	○
1学期末考査				○	○	○
	【第6章 アルゴリズムとプログラミング】 【6-1 プログラミングの方法】	アルゴリズムとプログラム、フローチャート、プログラミング言語について理解する。	アルゴリズムとプログラムの関係、プログラミング言語について説明できる。	○	○	○
	【6-2 プログラミングの実践】	変数、関数、探索・整列アルゴリズムを用いたプログラミングを実践する。	プログラミングの基本を習得し、問題解決に応用できる。	○	○	○
	【第5章 問題解決とその方法】 【5-1 問題解決】	問題解決の手順、問題発見、明確化、解決案の検討・決定、実施・評価について理解する。	問題解決の手順を理解し、主体的に問題解決に取り組むことができる。	○	○	○
(2学期中間考査)						
	【5-2 データの活用】	データ収集・整理、表計算ソフト活用、データ可視化、データ分析手法、データベースについて理解する。	データ活用スキルを習得し、問題解決に応用できる。	○	○	○
	【5-3 モデル化】	モデル化とシミュレーションの意義、モデルの種類、モデル化の手順・手法、注意点について理解する。	モデル化の意義を理解し、問題解決に活用できる。	○	○	○
	【5-4 シミュレーション】	シミュレーションの意義、モンテカルロ法、モデル化とシミュレーションによる問題解決を学ぶ。	シミュレーションの意義を理解し、問題解決に活用できる。	○	○	○
2学期末考査				○	○	○
	【第2章 メディアと情報デザイン】 【2-1 メディアとコミュニケーション】	メディアの種類と発達、特性、コミュニケーション形態、インターネットコミュニケーションについて理解する。情報の信憑性、信頼性を吟味し、目的に応じたメディア選択と情報発信を行う。	メディアの種類、特性、コミュニケーション形態を理解し、適切に活用できる。	○	○	○
	【2-2 情報デザイン】	情報バリアフリー、ユニバーサルデザイン、Webアクセシビリティ、ユーザビリティについて理解する。情報を正確かつ分かりやすく伝えるデザインの工夫、文書作成、プレゼンテーション作成を実践する。	情報デザインの重要性を理解し、分かりやすい情報伝達、操作性向上を工夫できる。	○	○	○
	【2-3 情報デザインの実践】	情報デザインの知識を活かし、報告書、レポート、プレゼンテーションを作成する。	情報デザインの知識を応用し、目的に沿った成果物を作成できる。	○	○	○
学年末考査						